

知的生産性における企業の可能性

黒田インターナショナル

黒田 毅

知的生産性は、手工業における過去から未来への完全な産業の転換を与える。既存性における生産環境は、明らかに時代変化への対応を混乱し、それらは GAFAM の誕生における知的生産性への産業の転換を原因とするのである。

これらは学術性を基盤として企業の経営が、知的生産性と生産の大幅な効率化をインダストリー 4.0 において実現し、テスラなどの企業経営を可能とするのである。

知的生産性は、大学などの学術性と創造性における企業経営の完全な転換を条件とする。これはアメリカ合衆国における大学基盤が、その学術性の利用した新しい社会転換を現実に実現しているのである。

これは企業が新しい可能性を実現できることであり、現実において世界の先端企業はそれを実現しているのである。

知的生産性における価値は、その企業利益の構築をこれら基盤において有し、遥かに勝る利益構築を可能とするのである。

これは手工業的企業経営が、時代性において完全に自己運営を不可能とするのであり、これら新しい競争環境は、唯一知的生産性における競争へと転換しているのである。

これらへの理解は、企業の改革とともに、時代性への到達を可能とできるのである。

西洋文明が、新しい未来の創造を、その過去から未来へ、自己転換をおこなっていると考えべきである。これらが遥かに早いスピードで現実の変化を実現しているのである。

企業はその自己経営基盤においてそれを現実化できるのである。労働が、知的生産へ完全な転換を実現することが必ずこれらの条件となる。